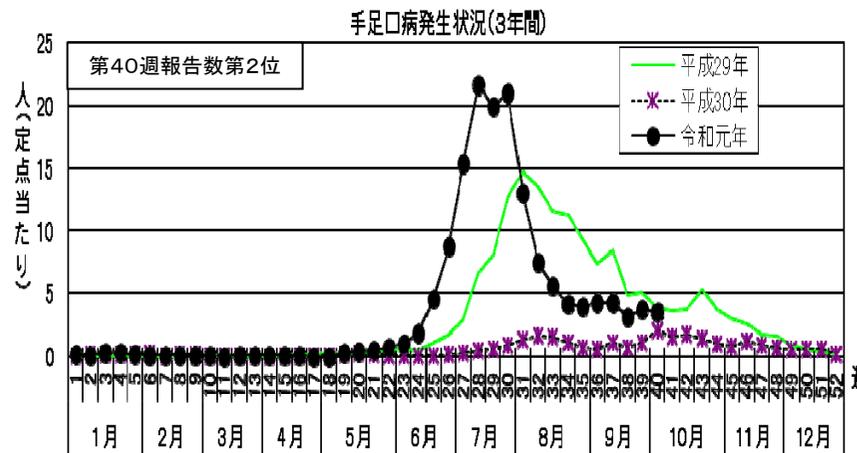
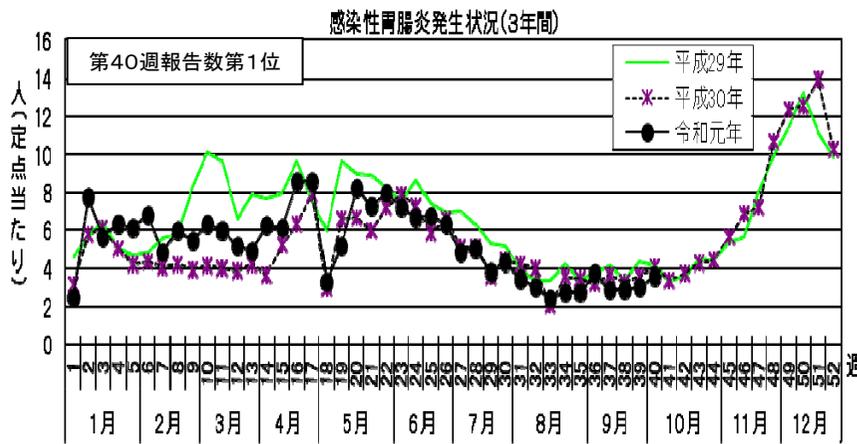


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年9月30日（月）～令和元年10月6日（日）〔令和元年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.62人と前週（3.03人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（3.75人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週（2.17人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



百日咳の地域的な流行がみられます！

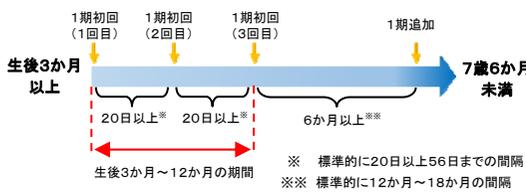
川崎市では、令和元年第37週（9月23日～9月29日）以降、百日咳の報告数が増加しています。令和元年第40週（9月30日～10月6日）の患者報告数は5件で、特に中原区からの報告が多くみられました。昨年と同様に、5～9歳が多く、いずれも4回のワクチン接種歴がありました。

百日咳は乳児が罹患すると重症化しやすく、死亡する場合があります。定期接種対象のお子さんには必ず接種を受けてください。

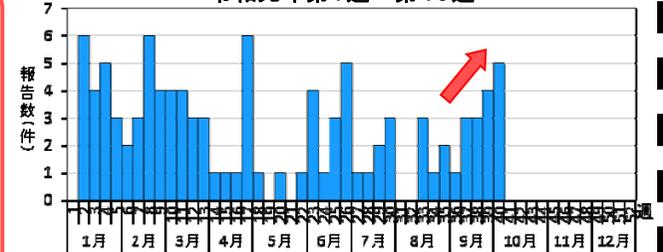
百日咳とは？

- 【感染経路】 飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】 6～20日間（通常7～10日間）
- 【主な症状】 風邪症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛のような音が出る咳発作がみられます。
 ※乳児では無呼吸発作やチアノーゼ、けいれんなどがみられたり、肺炎や脳症などの合併症を起こす場合があります。

百日咳定期予防接種のスケジュール



川崎市における百日咳発生状況
—令和元年第1週～第40週—



川崎市における百日咳年齢階級別発生状況
—令和元年第1週～第40週—

